

地球でいちばん幸せな場所

2008(平成20)年7月3日鑑賞〈東映試写室〉

★★★★



監督・脚本・製作・撮影＝ステファン・ゴーガー／出演＝ファム・ティ・ハン／カット・リー／レー・テー・ルー／グエン・ハウ（エスピーオー配給／2007年アメリカ、ベトナム映画／98分）

……秋葉原事件に象徴されるイヤなご時世の中、ベトナム発の心温まる映画が登場！ 10歳の少女トゥイと美しいフライトアテンダントのラン、そして動物園で働く若者ハイの間で展開される童話のような5日間の物語は、私たちの心をつつはず。人間同士の距離感を失っている日本の若者たちにこそ、こんな映画を観てもらい、やさしさや思いやりという単純な気持を再確認してもらいたい……。

ベトナム発の心温まる映画が登場！

中国発の心温まる映画が霍建起^{ファ・ジェンチイ}監督の『山の郵便配達』（99年）や張藝謀^{チャン・イーモウ}監督の『初恋のきた道』（00年）なら、ベトナム発の心温まる映画がこれ。ベトナム戦争終了後いち早く復興し、順調に経済成長を続けているベトナムは、アジアで最も日本に似た国であるうえ、ベトナム民族は最も日本人がつき合いやすい人たち。それが日本人のベトナム（人）観だが、それがますます実感に。

純真な心を持った10歳の少女トゥイ（ファム・ティ・ハン）を主人公とし、他人ながら直感的にトゥイの心に触れ支えていくことになるフライトアテンダントのラン（カット・リー）と、市の動物園でゾウの飼育員をしているハイ（レー・テー・ルー）をめぐる人間模様は実に心温まるもの。叔父さん（グエン・ハウ）が若干悪役気味で登場するのは気の毒だが、それも3人の心が繋がっていく様子をより際立たせるためのスパイス。

昨今、洋画・邦画を問わずややこしい映画が多い中、たまにはこんなシンプルな心温まる映画を！

上昇志向の美人だが……

フライトアテンダントをやっているくらいだから、ランは美人であるうえ上昇志向の持ち主……？ しかし、なぜか恋人がいないうえ、今は年上のパイロットと不倫関係にあるらしい。そりゃきちんと清算しなければ。定宿のホテルでランを迎えた受付嬢は、そんなランに従兄を紹介しデートを勧めたが、どうもしっくりいかないようだ。そんな中、ランが興味を示しお友達になったのは男ではなく、1人叔父さんの家から飛び出して、今はホーチミン市で花を売っているトゥイ。トゥイが寝るところもないことを知ったランは、「トゥイは心がきれいだし、人並みに暮らす権利があるわ」と言って、トゥイをホテルの部屋に案内し、「自由に使っていいわよ」と心を開いたところから、2人の奇妙な友情(?)が芽生えていくことに……。

動物と話せるだけでは……

他方、動物園で働いている若者ハイは、どうも動物と話ができるらしい。そんなハイが今心を痛めているのは、長年連れ添ったゾウが売られていくことになったため、別れが迫っていること。10歳ながら人の心の奥を鋭く読みとることができるトゥイは、ハイのやさしい気持を知るとともに、恋人のいない者同士のハイとランが恋人になれば、とおませなことを想像し、子供心にさまざまな策略を……？

動物と話せるだけではトゥイと友達にはなれても女にモテるとは思えないし、上昇志向の強いランにハイがふさわしい男かどうかとも難しいところだが、トゥイの導きによってデートすることになった(?) 2人は意外にも……？

親権と後見、そして要保護児童への措置は？

日本の民法は、未成年の子は父母の親権に服する(818条1項)とともに、「親権を行う者は、子の監護及び養育をする権利を有し、義務を負う」(820条)と定めている。また、「後見は、未成年者に対して親権を行う者がいないとき、又は親権を行う者が管理権を有しないときに開始する」(838条)と、未成年者後見人の制度を定めている。

他方、児童福祉法47条1項は、「児童福祉施設の長は、入所中の児童で親権を行う者、又は後見人のないものに対し、親権を行う者または後見人があるに至るまでの間、親権を行う」と定めている。また、児童福祉法25条は「要保護児童を発見した者は、

市町村、都道府県の設置する福祉事務所……に通告しなくてはならない」と定め、通告児童については「児童福祉施設への入所」など、「都道府県のとるべき措置」を定めている（27条）。ベトナムの民法（親子法）や児童福祉法がどうなっているのかわからないが、多分似たようなものだろう。したがって、市の職員が売り子のIDを持っていないトゥイたちを見つけて施設に送り込むのは、決して不当なことではなく、逆に児童の福祉を考えてのことだから、誤解しないように。

トゥイの引き取り合戦は？

その結果発生したのが、施設に収容されたトゥイの引き取り合戦。つまり、ホーチミン市までトゥイを迎えに来た叔父さんと、トゥイを心配するハイとランとの間で、トゥイの引き取り合戦となったわけだ。施設側の主張は、親族でないハイとランに引き渡すことはできず、あくまで叔父さんに引き渡すと言うのだが、なぜ叔父さんはこんなにまでしてトゥイを自分の家に連れて帰りたいの……？ それは、以前と同じように労働力としてトゥイをこき使うため……？ どちらに引き取らせるべきかについて、そんな実質的な理由まで考えれば、「規則によれば、親族でない方は引き取ることはできません」などと、単純に結論を出せないことは明白なのだが……。

思いがけない大波乱が……

10歳ともなれば相当知恵がついているうえ、頭がシャープなトゥイのことだから、叔父さんが酔っぱらって眠っている間に家を逃げ出すことは簡単。それだけならいいのだが、ハイがゾウを買い戻せるに足りるだけの大金を叔父さんの家から持ち出したのは、いくら頭がいいと言っても、やはり子供の浅知恵……？

トゥイの気持だけをうれしく受け取ったハイは、叔父さんの家にお金を返しに行くとともに、自分がトゥイを育てるという大胆な提案を。具体的には、トゥイに動物園の仕事を手伝ってもらい、学校にも行かせ、そのうえ自分の給料から叔父さんに毎月謝礼を払うというものだ。これには叔父さんもビックリだが、トゥイもビックリ！ さて、この提案の成り行きは……？

ランの出発時刻は刻々と……

他方、ランの5日間の休みはあっという間に過ぎ去り、いよいよ今日はフライトア

テナントとしての仕事開始の日。制服に身を包みさっそうと空港に向かうランは、トウイから届いたメッセージをまだ読んでいない様子。5日の間に起きたことは過ぎ去った過去のこと、と割り切り、勤務に向かおうとするランだったが、そのメッセージがどうしても気になったのは当然だ。そこで同僚に先に行ってもらい、メッセージを読んだランの目にはみるみる涙が。さて、そのメッセージには、トウイのどんな思いが綴られていたのだろうか……？そして、その後ランのとった行動は……？

果たしてトウイの思惑(?)どおり、ハイとランが結びつくことなどホントにあるのだろうか……？

2008(平成20)年7月12日記

今なお深刻な情状業辭
被害の実態を描いた坂田
雅子監督の「花はごへ
いった(二〇七年)は、ベ
トナム戦争は終わって
ない」という強烈なメッ
セージを伝えたが、ベト
ナム系米国人監督ステフ
アン・ゴーガーが描くの
は、十歳の少女トウイを
軸とした、美人客室乗務
員ランと象の飼育員ハイ
の友情物語。
「日出する処、の天子、
書を日没する処の天子に
致す」とした徳園から隋
皇帝への回書は意気揚々
だが、少子高齢化が進み、
後期高齢者問題の收拾す
らつかない日本は今や落
日(の国)？他方、人口ハ
千四百万人の六割以上が

10

弁護士 坂和章平の
LAW DE!
SHOW

「地球でいちばん幸せな場所」

きょうからシネマト心齋橋で公開



失った心の再生を!

二十歳未満という若々し
い回がベトナムだ。人口
の一割が集中するホーチ
ミン市(旧サイゴン)で
の三人の出会いに注目!
叔父を嫌って家出し、
路上で花を売るトウイが
「要保護児童」として一
人ぼっちで暮らす。後見人
になれるのは親族をそれ
も友人? そんな法律論
を見つけなければ。



©ANNAM PICTURES

より大切なのは、人間同
士の思いやりと絆。一
見華やかだが孤独なラン
と心を通わせたトウイ
は、象としか対話できな
い孤独なハイを結びつけ
たが、さて一人の恋の展
開は?
また、トウイを親族に
奪われた一人の巻き返し
とトウイの自立心の行方
は? 北京五輪開会式の
豪華さとは異質の、心温
まる中国映画が窪建起
監督の「山の郵便配達」
(一九九年)と張藝謀監
督の「初恋のきた道」(二〇
〇年)だったが、今や中

大阪日日新聞 2008(平成20)年8月9日

第5章

映画の話題で家族団らん

252 少女が主人公のシンプルなストーリー